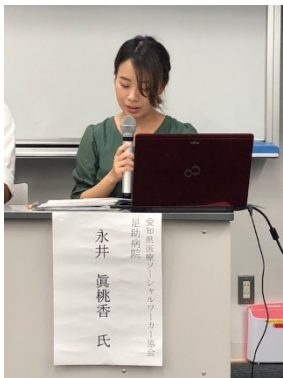


ソーシャルワーカーデー2019 in あいち

ソーシャルワーカーの活動の普及と推進を目的として、2009年より「海の日」をソーシャルワーカーデーとし、愛知県では毎年7月初旬に開催しています。今年は「ソーシャルワーカーに期待すること ～当事者からの声～」をメインテーマとして、7月7日(日)に愛知県立大学長久手キャンパスにおいて開催され、258名の方が参加をされました。

第1部の「ソーシャルワーカーへの期待に応えたい！」では、「社会福祉領域」、「医療福祉領域」、「精神保健福祉領域」ごとに、学生と現役ソーシャルワーカーの対話方式で進められました。

これからソーシャルワーカーを目指す学生に「実習に向けての不安や期待」「実習を通して得たもの」「目指すソーシャルワーカー像」を語っていただき、それに対し、現役のソーシャルワーカーより実践内容を話してもらいつつ、当事者の「支え」「生きる喜びの一助」となれるソーシャルワーカーの素晴らしさ、魅力を語っていただきました。



当協会からは、足助病院の永井眞桃香さんが医療福祉領域の現役ソーシャルワーカーとして登壇されました。医療ソーシャルワーカーを目指す学生に向けて永井さんより、「実習の際には、病院の空気感、働いている人を良く見て、そして何より実習を楽しんでください」とエールが送られました。

第2部の「ソーシャルワーカーに期待すること ～当事者からの声～」では、実際にソーシャルワーカーに支えられた当事者、もしくはピアサポーターという立場から、ソーシャルワーカーとの関わりについて、そしてソーシャルワーカーに期待することを語っていただきました。

辛く・苦しい時期を過ごしていた当事者の方が、ソーシャルワーカーとの出会いが転機となり、仕事を始め、ピアサポーターとなり、結婚もでき、回復の道を辿ることができたそうです。ソーシャルワーカーに期待することとして「相談には真摯ののってほしい、当事者の持っている力を引き出してもらいたい」と話をしてくださいました。また、当協会が登壇者として推薦したNPO法人ミーネット理事長の花井美紀氏からは「ソーシャルワーカーの方々にはピアサポート団体の情報をしっかりと把握していただき、必要な方が必要な団体へ繋がることのできるような『つなぐ機能』を発揮してもらいたい。そしてもっともっとソーシャルワーカーの存在をアピールしてもらいたい」という期待のお言葉をいただきました。

コーディネーターを務めていただきました愛知県立大学教育福祉学部准教授の大賀先生より、「一人で頑張り続けるのはやはり孤独である。障害の有無に関係なく、誰もが支え・支えられる、そういう社会に生きているということを改めて実感しました。」と、会を通しての感想がありました。



現場で働くソーシャルワーカーとして、「この支援で本当に良かったのだろうか?」と、悩みながら患者さんやそのご家族と向き合い相談支援を行っています。そんな日々を送る中、学生さんのフレッシュな思いや、当事者の方からの素直な気持ちを聞くことができたこの機会はとても貴重な時間であり、明日からの業務の活力となりました。

「ソーシャルワーカーデーin あいち」は来年も開催が予定されています。たくさんの方々の参加をお待ちしております。

(文責 渡邊啓后)